

地域に視点をあてた事業展開 [種別横断]

中心市街地に多世代の人々が集うまちづくりへの取り組み

中心市街地の活性化を意識し、JR三原駅前にあるシャッター通りとなっていた商店街に人を集めるために、開設したケアハウスを拠点に様々なイベントを企画・実施した。あわせて、商店街の空き店舗を活用した子育て支援に関する事業を展開することにより、高齢者のみならず子どもやその親といった多世代の人々が集い交流できるまちづくりに取り組んだ。

広島県

社会福祉法人

泰清会

〒723-0017 広島県三原市港町1-3-22

TEL: 0848-61-5788 FAX: 0848-62-1088

○法人設立年／平成10年

○法人実施事業

- ①経営施設数合計：4 施設14事業所
- ②経営施設・事業【種別毎の数】：
特別養護老人ホーム（ショートステイ含む）…1、
デイサービス…2、ホームヘルパーステーション…1、
ケアハウス（特定施設入居者生活介護含む）…2、
居宅介護支援…3、小規模多機能型居宅介護…2、
高齢者専用賃貸住宅…1、保育園…1、
地域子育て支援センター…1

○法人の理念・経営方針

- ・法人理念
「私たち泰清会は、地域の人々の安心と、心豊かな社会の実現に貢献します」
- ・平成21年度 基本方針
原点回帰をキーワードに、これまで集積してきた介護や保育に関する様々なノウハウを地域に還元し、安心して生活できる「まちづくり」の中核的な役割を担います。

○取り組みの法人での位置づけ等

子育て支援については「地域子育て支援センター事業」として事業計画書に記載している。その他の取り組みは事業計画の基本方針に則って実施している。

○取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

ケアハウスサンライズ港町、さんさんみなど保育園

【施設種別及び利用定員】

軽費老人ホーム 56名（内、特定施設入居者生活介護18名）

○活動内容

◇活動開始年

平成16年7月

◇活動の対象者：

地域住民、施設利用者、就学前未就園児とその保護者（地域子育て支援センター）、商店街の各店舗

◇活動の頻度・時間：

- ・さんさん土曜日…月1回（第1土曜日）、1回あたり3時間（9～12時）
- ・さんさんシアター…月1回（第1土曜日）、1回あたり約2時間（14時～）
- ・地域子育て支援センター…毎週月曜日～金曜日（年末年始、祝日を除く）、1日5時間（10～15時）

活動実施の背景、実施にいたった理由

JR三原駅より歩いて5分ほどの場所にある商店街は、相次ぐ郊外型の大型ショッピングセンターの出店や店舗の老朽化、店主の高齢化などにより、人通りもまばらでいわゆるシャッター通りとなりつつあった。このような状況は三原市だけでなく、全国的にも多く見られるものであるが、駅前の目抜き通りとも言えるこの商店街が衰退しては、中心市街地全体の発展も到底期待できないものであった。

平成15年11月、この商店街に当法人は、ケアハウス「サンライズ港町」を開設した。この施設は建設当初から、商店街の活性化への期待を背負っており、開設後には入居者はもとよりその家族や関係者が商店街を行き交うようになった。しかしながら、これだけでは商店街の活性化とはいえず、さらに人を集わせる仕掛けが必要であった。

翌年3月、三原市は周辺3町と合併し「新三原市」となった。この合併をきっかけに、中心市街地にあるこの商店街の活性化に向けた取り組みに着手した。

実施内容

平成16年7月、「新三原市」としての一体感を市内全域で持てるよう「ひと・もの・文化」の交流の促進を趣旨として、市内各地域の特産物販売や各種イベントを開催する『さんさん土曜日』をスタートさせた。代表的なイベントとして、12月に「クリスマスメモリアル」と題して、通常の特産物販売とは別に、夕方からは約1万個のLED電球で装飾したイルミネーションの点灯式等を行っている。

また平成19年4月より、ケアハウスの地域交流スペースを利用しミニシアター『さんさんシアター』をスタートさせ、地域の方を対象に定員30名の無料上映会を開催している。地元の企業などから賛助金を募り、運営費は、上映する作品はビデオ・DVD供給管理会社より1作品あたり約3～4万円で購入している。

さらに、同年同月にサンライズ港町の向かいに、整形外科やレストラン等が入居したビルが建設され、その2階に「さ

んさんみなと保育園」を開所した。平成20年6月には保育園の付帯事業として商店街の空き店舗を活用した『さんさんみなと地域子育て支援センター』を開設した。専属の保育士2名を配置し、未就園児とその保護者を対象に、それぞれの交流の場として、また、子育てに関する相談窓口として利用いただいている。さらに、火曜日は「ふれあい遊び」と称し地域の高齢者との交流の日としている。ケアハウスや高齢者マンションの入居者のもとより、地域の高齢者が気軽に立ち寄り子ども達と触れ合うことを促している。木曜日は「遊びの会」の日とし、実際に保育園で行っている遊びを実施する等、その機能を地域に開放している。

活動効果 (利用者や職員、地域などの反応、影響)

『さんさん土曜日』は開始から5年が経過し、地域住民に十分周知されるようになった。特に特産物販売では様々なブースの出店があり、目当ての品物を求めて毎回来訪される方も多くいる。クリスマスメモリアルでは、平成19年に保育園を開設してからは園児達による歌の披露がイベントの名物となっている。その保護者や関係者の他、地域の人々も多く訪れ、毎年約300人の人出で賑わっている。

『さんさんシアター』は、当初は来場者が10人を下回ることも多かったが、最近ではコンスタントに20人程度が来場している。口コミはもとより、新聞や市の広報誌のイベント情報欄への掲載などが奏功したものと思われる。「映画館のなくなったこの三原で、いろいろな映画が見られて嬉しい」という声を来場者からいただいている。

『さんさんみなと地域子育て支援センター』は、開設から1年が経過し、徐々に利用者数も伸びている。特に、定期的で開催している遊びの会などのイベントには多くの利用があり、顔なじみの利用者も増えている。今年の4～6月の3ヶ月間では、13回のイベントに延177人の参加があった。

当法人や関連機関が展開した一連の取り組みにより、商店街を行き交う人々の数は増え、その年齢層も明らかに多様化し、活性化に繋がっている。

今後の課題及び展開

一連の取り組みは徐々に地域に根付きつつあるが、それぞれに課題は残されている。

『さんさん土曜日』では、現在、毎回平均して

6～7業者程度の出店があるが、数が季節に左右されることが課題である。今後は、安定的な出店数を確保するための新たな業者の参入を促すなどの取り組みが必要である。

『さんさんシアター』では、これまでの様に単に上映会を開催するだけではある程度決まった人しか来場されず、広く地域に向けた上映会とは言えない。例えば、上映する作品にまつわるパネルや関連する品の展示すること等により、イベント性を持たせる工夫が必要である。

『さんさんみなと地域子育て支援センター』では、高齢者を中心とした地域への周知が課題である。火曜日の「ふれあい遊び」は、地域の高齢者とセンターを利用する子ども達との交流を目的としているが、高齢者の利用は少ないという現状がある。今後益々の広報活動が必要である。

これらの課題の解決に向けて取り組みつつ、それぞれが相乗効果により発展し、中心市街地の活性化につながるよう継続していきたい。

主な経費や財源及び人員等

(年間あたり)

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
【土曜日】謝礼金、イルミネーション設置費用 等	70,000円	特産物販売ブース料 等	70,000円
【シアター】上映作品(DVD)借用費用 等	300,000円	賛助金 等	300,000円
【みなと地域子育て支援センター】空き店舗改装費用 等	7,000,000円	補助金 等	7,000,000円
<合計>	7,370,000円	<合計>	7,370,000円

・取り組みに係わった職員数 7名
(職種等：施設長、事務員、相談員、管理栄養士、保育士)

